

# 「道の駅」の景観配慮に関する項目の試案 — 利用者の視点に着目して —

柳田 桃子<sup>1</sup>・松田 泰明<sup>2</sup>・岩田 圭佑<sup>3</sup>・大部 裕次<sup>4</sup>

<sup>1</sup>正会員 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所（〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34）

E-mail: yanagida-m@ceri.go.jp

<sup>2</sup>正会員 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所（〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34）

E-mail: y-matsuda@ceri.go.jp

<sup>3</sup>正会員 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所（〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34）

E-mail: iwata-k@ceri.go.jp

<sup>4</sup>正会員 国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所（〒062-8602 札幌市豊平区平岸1条3丁目1-34）

E-mail: oobu-y22aa@ceri.go.jp

「道の駅」の登録要綱には、施設の整備にあたって景観に十分配慮するよう示されている。また、先行研究より、「道の駅」における内部景観の良好さは利用者の「道の駅」全体の評価に影響することを確認している。しかし、実際は利用者が快適に感じる景観配慮が十分になされていない事例が多い。その要因として、「道の駅」の計画・設計の際に具体的に景観配慮すべき項目が示されていないことが考えられる。

そこで本研究は、「道の駅」の景観配慮すべき項目の抽出を目的とする。具体には、「道の駅」の景観に影響する観点を先行研究より仮定し、実際の事例について仮定した観点が配慮出来ているか分析した。その結果より景観配慮の具体的なポイントと評価の視点をまとめ、「道の駅」の景観配慮項目を提案した。

**Key Words:** Michi-no-Eki, landscape consideration, evaluation item, evaluation method, user evaluation

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

「道の駅」の登録要項<sup>1)</sup>では、整備にあたっての配慮事項として「施設計画は景観に十分配慮し、特に景勝地にあつては、地域の優れた景観を損なうことのないよう計画されていること」と示されている。また、先行研究<sup>2)~4)</sup>より、「道の駅」における内部景観の良好さは利用者の施設の総合的な評価に影響することを確認している。しかし、実際は景観配慮が十分にされておらず、道路利用者の快適な休憩や地域の魅力発信に「道の駅」の景観が十分に寄与できていない。

その要因の一つとして、計画・設計の際に具体的に景観配慮すべき項目が示されていないことが考えられる。

そこで、本研究では「道の駅」で景観配慮すべき項目の提案を目的とする。

### (2) 研究の方法

「道の駅」の先行研究<sup>2)~5)</sup>では、休憩空間の質的要素に対する利用者の評価や、施設の計画・設計の配慮事項を明らかにしている。まず、それら先行研究から「道

の駅」の景観に影響する観点を仮定した。次に、北海道内の128事例と全国より道外の6事例、合計134事例の「道の駅」を対象に、景観に影響する観点について配慮できているか分析した。その結果より、景観配慮の具体的なポイントと評価の視点をまとめ、「道の駅」の景観配慮項目を提案した。

## 2. 「道の駅」の景観に影響する観点

「道の駅」の設計・計画についての先行研究<sup>2)~5)</sup>から、景観に影響する内容を抽出して仮定した。表-1に「道の駅」の景観に影響する観点を示す。敷地外部から見た景観、敷地内部から見た景観、敷地内外に共通する景観の3区分で8つの観点を仮定した。

## 3. 「道の駅」事例を対象とした景観配慮の分析

### (1) 対象事例

評価対象の「道の駅」は、北海道の128事例（2020.7.1.現

在)と、道外の建築や土木、デザイン分野の受賞作品 6 事例とした。なお、グーグルストリートビュー上で確認できない7事例と、鉄道駅舎内に「道の駅」が含まれる1事例は評価対象から除いたため、最終的な対象事例としては、126 事例とした。

## (2) 分析方法

前章で表-1 に仮定した①～⑧の観点から、グーグルストリートビューによる画像を用いて126事例を分析し、具体的な配慮事項を抽出した。なお、視点位置としては、グーグルマップのストリートビューで確認できる、道路から「道の駅」を見た視点を主に、駐車場や園地、建物周りからの視点を対象にした。

## (3) 道の駅事例と景観に影響する観点の分析結果

### a) 周囲の景観との調和

周囲の景観との調和している事例では、山間地域や農村地域にあつては、周囲の山並みや林地、田園風景を引き立てる施設の外観デザインが必要であることが上げられた(写真-1)。また、特色ある街並みや歴史的建物に近接し立地する場合には、街並みや歴史的建物に合わせた外観や配置の工夫が必要であることも上げられた(写真-2,3)。これら事例は、周囲の景観と外構や建物が一体となり引き立ったり、街並みや歴史的建物と外構や建物が連続感あることにより、地域らしさが表現されていた。周囲の景観と調和していない事例としては、様々な外観の施設が集まり雑多な印象であったり、目立つ外観や逆に印象が暗く閉鎖的な外観が周囲の景観になじまないことがあげられた。

### b) 道路やまちとのつながり

道路やまちとのつながりがある事例では、道路に対して施設が近くに配置され施設がよく見えた上で、花の植栽や、施設前に滞留する人の様子を見せるなど、もてなしや賑わいを感じさせる工夫がされていた(写真-4)。施設が道路から遠く離れていると施設状況がわかりにくく、賑わいは見えなかった。

### c) 内部景観の調和

内部景観が調和している事例では、施設同士や付属構造物の外観や高さを合わせるなど、「道の駅」全体の外観の一体感や連続性が出るよう配慮されていた(写真-5)。内部景観の調和がない事例では、敷地内の建物が個別に異なる意匠であったり、看板が大きく目立っていた。

### d) 施設同士のつながり

施設同士のつながりが配慮がされている事例では、施設同士が近接し園地や歩道でつながっていたり、施設、園地、駐車場が相互に見え、各利用者同士が見合ったり

表-1 「道の駅」の景観に影響する観点

	景観に影響する観点
敷地外部から見た景観	① 周囲の景観と調和
	② 道路やまちとのつながり
敷地内部から見た景観	③ 内部景観の調和
	④ 施設同士のつながり
	⑤ 屋外空間の活用
敷地内外に共通する景観	⑥ 敷地外部の景観活用
	⑦ 景観阻害を抑える
	⑧ 緑や花の活用



写真-1 背後の山並みに調和した施設外観の例  
(Google map)



写真-2 地域の歴史的な建物に合わせた施設外観の例  
(Google map)



写真-3 周囲の街並みと配置等合わせている例  
(Google map)



写真-4 道路から施設が近くもてなしや賑わいを感じる例  
(Google map)

行き来しやすくなっていた（写真-6, 7）。

#### e) 屋外空間の活用

屋外空間の活用がされている事例では、施設前の園地を緑化することで利用者にとって快適な休憩場所にする工夫をしていた（写真-8）。一方で屋外空間が活用されていない事例としては、施設前の園地が固い舗装で快適ではなかったり、施設から離れた位置に緑地があり活用しにくい状況であった。

#### f) 敷地外部の景観活用

敷地外部の景観が活用されている事例では、施設ごとに眺望景観が見えたり、好眺望を眺めるように園地を配置する工夫がされていた（写真-9, 10）。一方、活用されていない事例では、付近の好眺望の視点が敷地や施設になかった。

#### g) 景観阻害を抑える

景観阻害要因を抑える配慮がされている事例では、駐車場の奥行きを抑え道路との間に樹木や緑地を設けて、視界に入る駐車場の面積を減らす配慮がされていた（写真-11）。配慮できていない事例では、道路に面して駐車場の規模が大きく奥行きがあったり、大型車両が建物前や道路から見え圧迫感があった。また、道路の電線・電柱や、敷地内の設備や管理用施設が目立っていた。

#### h) 緑や花の活用

緑や花の活用の配慮がされている事例では、駐車場内に植樹されている、広場や建物周りに花や緑が配置されている、休憩施設が緑の中にある、樹木で空間を飾るなど工夫がされていた。



写真-7 施設、園地、駐車場の相互に見える例



写真-8 施設前の緑化した園地の休憩場所の例



写真-9 道路から施設ごとに好眺望が見える例  
(Google map)



写真-5 施設や付属物の外観や高さを合わせている例  
(Google map)



写真-10 好眺望を眺める園地の例



写真-6 施設同士が近接し園地でつながっている例  
(Google map)



写真-11 駐車場の奥行きを抑え樹木や緑地を設けた例  
(Google map)



## 4. 「道の駅」の景観配慮項目の提案

前章の事例を対象とした景観配慮の分析結果を踏まえ、景観配慮の具体的なポイントと景観配慮の評価視点を示す。また、景観配慮の評価視点について、重要度や優先度を検討するために、126事例を景観配慮の評価視点について、出来ている・出来ていない・どちらともいえないの3選択肢で評価し割合を示す。なお、評価は先行研究の知見をもとに、著者の主観による判断とする。以上をまとめて、表-3に「道の駅」の景観配慮項目（試案）と事例の景観評価結果を示す。

### (1) 景観配慮の具体的なポイント

景観配慮の具体的なポイントとしては、表-3の景観に影響する観点ごとに、以下のことが考えられる。

周辺景観との調和

- ・立地環境にあわせた配慮
- ・敷地内の施設等の外観を合わせる

道路とまちとのつながりでは

- ・道路の近くに施設を配置する

内部景観の調和

- ・施設同士や施設と付属物の外観を合わせる

施設同士のつながり

- ・施設同士が近接し、園地や歩行路でつながっている

屋外空間の活用

- ・施設周りの園地に緑を配し魅力化する

敷地外部の景観活用

- ・敷地に眺望景観の視点場がある

景観阻害を抑える

- ・駐車場の規模や道路からの奥行きを抑える
- ・道路と駐車場の境界や駐車場内に緑地や樹木を設ける
- ・大型車の駐車マスを道路や施設から見えにくい位置にする

緑や花の活用

- ・駐車場や施設まわりの園地の緑化

### (2) 景観配慮の評価視点

景観配慮の評価視点は、以下のことが考えられる。

周辺景観との調和

- ・周囲の景観と調和する、引き立てるデザイン
- ・外構や建物など空間イメージに地域性を感じる

道路とまちとのつながり

- ・道路から第一印象で施設状況を把握しやすい
- ・「道の駅」の外から賑わいやもてなしを感じる

内部景観の調和

- ・「道の駅」全体の外観の一体感や連続性に配慮

施設同士のつながり

- ・駐車場、園地、施設、各利用者同士の位置関係が視覚

的に確認しやすい

屋外空間の活用

・利用者の休憩行動を考えた魅力的な景観や園地の設え  
敷地外部の景観活用

- ・周辺景観の見え方に配慮した施設の配置や動線、開口部にして魅力的な眺望を提供

景観阻害を抑える

- ・駐車場、車両の人工的で無機質な印象を軽減
- ・無電柱化されている
- ・設備や管理用施設が利用者の目に届かない

緑や花の活用

- ・駐車場に樹木を植栽
- ・広場や建物周りに花や緑を配す
- ・樹木で施設や空間を飾る
- ・豊かな緑の中の休憩施設

### (3) 事例の景観配慮評価結果

表-3の事例の景観配慮評価結果について以下に示す。

「①周辺景観との調和」の「外構や建物など空間のイメージに地域性を感じる」が出来ていないものが48%、「②道路やまちとのつながり」の「「道の駅」を外から見た賑わいやもてなしを感じる」が出来ていないものが60%、「⑤屋外空間の活用」の「利用者の休憩行動を考えた魅力的な園地の設え」ができていないものが75%と、約半数以上の事例が配慮出来てなかった。これらは利用者が「道の駅」の評価する上で魅力となる内容であり、魅力を向上する上で重要度が高い項目と考えられるが配慮が十分ではなかった。「⑧緑や花の活用」に関する評価視点では、出来ていない割合が73~91%と高かった。緑や花は利用者の快適性に影響し、計画時だけでなく管理運営時に配慮できることから取り組みの優先度が高い項目と考えられる。

## 5. まとめ

「道の駅」の景観配慮すべき項目の試案として以下のことを示すことができた。

- ・「道の駅」の景観に影響する観点
  - ・景観配慮の具体的なポイント
  - ・景観配慮の評価視点
  - ・緑や花の活用が出来ていない事例が多いこと
- また、今回の試案における課題を以下に示す。
- ・景観配慮を評価する観点の仮定に対する検証
  - ・景観配慮を評価する客観的指標や方法の検討
  - ・施設屋内の視点からの景観配慮項目の検討
- 今後はこれら事項を検討し、景観配慮項目をまとめたい。

表-3 「道の駅」の景観配慮項目（試案）と事例の景観評価結果

「道の駅」の景観配慮項目				事例の景観配慮評価結果		
	景観に影響する観点	具体的ポイント	景観配慮の評価視点	○	×	?
				(%)	(%)	(%)
敷地外部からみた景観	①周辺の景観と調和	・立地環境に合わせた配慮 ・敷地内の施設等の外観を調和	1 周囲の景観と調和する、引き立てるデザイン	29	17	54
			2 外構や建物など空間イメージに地域性を感じる	20	48	32
敷地内からみた景観	②道路やまちとのつながり	・道路の近くに施設を配置	1 道路から第一印象で施設状況を把握しやすい	52	17	30
			2 「道の駅」の外から賑わいやもてなしを感じる	22	60	18
敷地内からみた景観	③内部景観の調和	・施設同士や施設と付属構造物の外観を揃える	1 「道の駅」全体の外観の一体感や連続性に配慮	21	29	51
	④施設同士のつながり	・施設同士が近接し、園地や歩行路でつながっている	1 駐車場、園地、施設、各利用者同士の位置関係が視覚的に確認しやすい	21	35	44
	⑤屋外空間の活用	・施設周りの園地を緑で魅力化	1 利用者の休憩行動を考えた魅力的な景観や園地の設え	6	75	18
敷地内外に共通する景観	⑥敷地外部の景観活用	・敷地に眺望景観の視点場	1 周辺景観の見え方に配慮した施設の配置や動線、開口部にして魅力的な眺望を提供	6	8	87
	⑦景観阻害を抑える	・駐車場の規模や道路からの奥行きを抑える ・道路と駐車場の境界や駐車場内に緑地や樹木を設ける ・大型駐車マスは道路や建物から見えにくい位置にする	1 駐車場、車両の人工的で無機質な印象を軽減	25	44	31
			2 無電柱化されている	31	64	5
			3 設備や管理用施設が利用者の目に届かないようにする	25	27	48
⑧緑や花の活用	・駐車場を緑化する ・施設周りの園地を緑化する	1 駐車場に樹木を植栽	9	81	10	
		2 広場や建物周りに花や緑を配す	15	73	12	
		3 樹木で施設や空間を飾る	6	90	4	
		4 豊かな緑の中の休憩施設	2	91	7	

【凡例】 ○ 出来ている × 出来ていない ? どちらともいえない

参考文献

- 1) 「道の駅」登録・案内要綱：国土交通省 HP, <https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/pdf/guidance.pdf> (2018.7.5 取得)
- 2) 高田尚人, 松田泰明：道の駅の休憩機能の重要性と利用者評価, 寒地土木研究所月報第 709 号, pp.38-43, 2012.6
- 3) 高田尚人, 松田泰明, 福島秀哉：道の駅の休憩機能の重要性と利用者の評価に影響を与えるハードの要素について, 第 54 回（平成 22 年度）北海道開発技術研究発表会, 2011.2
- 4) 松田泰明, 高田尚人：道の駅の快適な休憩空間の重要性と利用者評価, 平成 23 年度年次技術研究発表会, 2012.2
- 5) 吉田智, 松田泰明, 笠間聡：「道の駅」計画・設計の現状と課題について, 第 54 回土木計画学研究発表会, 2016.11

(2020.10.3 受付)